

九州7県の防災意識

	水と食糧を備蓄している	家や家具の災害対策をしている
福岡	30% (38)	35% (35)
佐賀	29% (41)	24% (46)
長崎	23% (47)	22% (47)
熊本	26% (43)	38% (31)
大分	27% (42)	32% (39)
宮崎	31% (35)	34% (36)
鹿児島	26% (43)	37% (32)
全国	47%	49%

ウェザーニュースの意識調査から。

() は全国の順位

九州の市民は全国の中でも防災意識が低い、との実態が企業や団体の調査で顕著になっている。民間気象会社の調査によると、非常食の準備状況は都道府県別で6県がワースト10に入り、家や家具の災害対策も九州の2県でワースト1、2位を占めた。長崎はいずれも最下位だった。福岡沖地震を経験した福岡や、南海トラフ地震の被害が予想される大分、宮崎、鹿児島でも全国平均を下回る。専門家は「自然災害が多い九州では、食糧備蓄などの備えが必要だ」と呼び掛けている。

【3面に「読み解く」】

防災意識低い九州

食糧準備 ワースト10に6県 家具対策 下位2県 長崎、佐賀

玄界島

防災訓練で、震災後に整備された階段を下りて避難所へ向かう島民たち。20日午前10時4分、福岡市西区の玄界島



(撮影・金田達依)

福岡沖地震11年で防災訓練 玄界島「備え」再確認

福岡市や佐賀県などで最大震度6弱を記録し、1人が死亡、約1200人が負傷した福岡沖地震の発生から20日で11年を迎えた。約7割の家屋が全半壊した玄界島(福岡市西区)では防災訓練があり、住民の4割に当たる197人が参加した。

訓練は地震や津波に備えるため、震災翌年から実施。今回は風水害による島内の土石流を想定し、住民たちは港に近い公民館と集会所に避難した。

11年前に島で激しい揺れを経験した細江貞子さん(82)は「いざというときは周りの人と助け合いな」と気を引き締めていた。訓練を主催した島自治会の上田永(ながし)会長は「災害への意識が薄れがちになっている。訓練を機に備えをしていこう」と呼びかけた。

福岡市はこの日を「市民防災の日」と定めており、地震発生時刻の午前10時53分、市内約60カ所の消防分団車で一斉にサイレンを鳴らした。(福岡慎一)

民間気象会社ウェザーニュース(千葉市)が2月下旬に全国約2万4千人に実施した調査では、保存している非常食について「水と食糧」を備蓄しているのは長崎23%▽熊本、鹿児島26%▽大分27%などと全国平均47%を7県ともに下回った。最も高かった宮崎で

も31%で、上位の宮城60%、神奈川58%、東京、静岡55%などと大差がついた。耐震補強や転倒防止など「家や家具の災害対策」をしているのは、長崎22%▽佐賀24%▽大分32%などで、最も高い熊本でも38%と、7県全てで全国平均49%に及ばなかった。上位は

州の低さが目立った。

宮城67%、岩手、静岡58%、東京57%の順となり、東日本大震災を経験した東北や、早くから東海地震の危険性が指摘された東海、首都圏などで意識の高さが見られた。医療や保健の専門家などをつくる研究会「水を考えるプロジェクト」がウェザーニュースと同様の項目を尋ねた昨年の調査でも九州の低さが目立った。

九州の防災 東日本大震災5周年

兵庫県立大の木村玲玖准教授(防災心理学)は「九州では近年、多数の死者が出る大規模災害がなく、東北などから距離が遠いこともあり、災害室わがごとく」として意識しにくい」と分析。九州大アジア防災研究センターの橋本晴行教授(自然災害科学)は、九州では台風や豪雨、火山噴火などさまざまな災害が多発するとし、「各地域で想定される被害を知り、数日から1週間の孤立に備えるべきだ」と話している。

(森井徹)